

6 事前キャンプ

事前キャンプの誘致により、国際交流・観光・産業・教育など幅広い分野でまちを活性化させるとともに、交流を促進し、まちの魅力を向上するため、東京都や組織委員会、様々な関係団体と連携して、オリンピック・パラリンピック参加国の事前キャンプを誘致しました。

また、事前キャンプ実施の際には、子どもたちと相手国との交流や地域振興を図るとともに、市の魅力を国内外に広く発信しました。

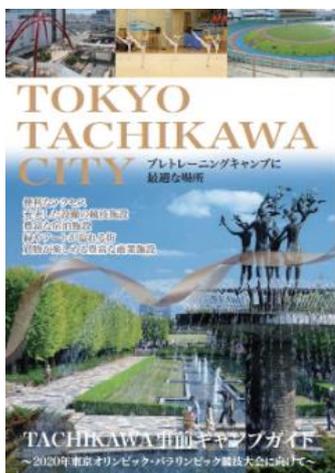
取り組み	詳細
事前キャンプガイドへの登録	P. 41
立川市版事前キャンプガイドの活用	P. 41
東京都や東京女子体育大学等と連携した誘致活動	P. 42
T o k y o 2020 オリンピック・パラリンピック参加国のバスケットボール選手団事前トレーニングキャンプ誘致に関する請願	P. 42
ホストタウン関連事業	P. 43
ベラルーシ新体操チームの事前キャンプ	P. 45
パンアメリカンスポーツ機構加盟国の事前キャンプ	P. 49

事前キャンプガイドへの登録

事前キャンプを誘致するため、東京都や組織委員会、全国知事会がそれぞれ発行する事前キャンプガイドに泉市民体育館や柴崎市民体育館、立川公園陸上競技場、立川公園野球場、立川競輪場等のほか、連携する東京女子体育大学や市内の宿泊施設にもご協力いただき、登録を行いました。

立川市版事前キャンプガイドの活用

事前キャンプの候補地を探す各国競技団に市の魅力を紹介する事前キャンプガイドを平成 27（2015）年度に作製し、東京都や東京女子体育大学を通じて各国の関係者へ配布しました。



東京都や東京女子体育大学等と連携した誘致活動

○フィンランドオリンピック委員会による視察（平成 29（2017）年 6 月 9 日）
事前キャンプの候補地として検討するため、フィンランドオリンピック委員会が市の競技施設や宿泊施設、連携する東京女子体育大学を視察しました。

T o k y o 2020 オリンピック・パラリンピック参加国のバスケットボール選手団事前トレーニングキャンプ誘致に関する請願

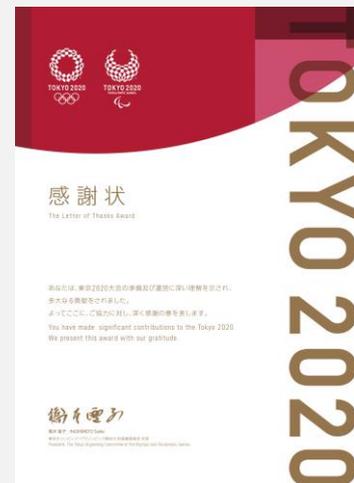
平成 29（2017）年 7 月 21 日、立川市バスケットボール協会より、バスケットボール選手団事前キャンプ誘致に関する請願がありました。

市は誘致の可能性を広く探るため、特定の国又は競技に絞り込んだ取り組みは行っていないものの、スポーツ祭東京 2013（第 68 回国民体育大会）の際に市内の会場で実施したバスケットボール等の競技については、誘致の中心的な競技として、リオ 2016 大会においても各国の競技団体に公式の事前キャンプガイドを配布するなど、誘致に向けての取り組みを進めていることをご報告しました。

また、海外からの視察が行われた際には、バスケットボールの競技実績や、公式の事前キャンプガイドに登録していることを説明している状況をお伝えし、今後も様々な関係者等と連携して、事前キャンプの誘致に取り組んでいくこととしました。

事前キャンプ誘致活動への感謝状受領

市の事前キャンプ誘致活動の取り組みが、国内における東京 2020 大会のムーブメントの醸成及びエンゲージメントに大いに寄与するものだったとして、組織委員会の橋本聖子会長より、感謝状をいただきました。



ホストタウン関連事業

ホストタウンとは、日本の自治体と東京 2020 大会に参加する国や地域の住民等がスポーツや文化、経済などの多様な分野で交流することを通じ、地域の活性化等に活かし、東京 2020 大会を超えた交流を実現することを目的とした取り組みです。

市は、ベラルーシ新体操チームの事前キャンプをきっかけにベラルーシのホストタウンとして登録したことから、ベラルーシ大使館と連携したイベントへの参加や、展示の実施等を通じて交流を深めました。

【主な取り組み】

○駐日ベラルーシ共和国特命全権大使による視察及び表敬訪問

(平成 31 (2019) 年 1 月 10 日)

事前キャンプの実施に先立ち、ルスラン・イエシン駐日ベラルーシ共和国特命全権大使が立川市を訪問されました。サンサンロードより周辺施設等を展望した後、ファーマーズセンターみののれ立川や国立極地研究所南極・北極科学館を視察し、市長を表敬訪問されました。



表敬訪問

○ベラルーシのホストタウンとして登録

平成 31 (2019) 年 2 月 28 日付で、市はベラルーシのホストタウンに登録されました。

ベラルーシ新体操チームの事前キャンプを契機に、子どもたちと選手との交流事業や、小中学校におけるベラルーシに関する授業や食を通じた学習、展示や講座の開催、市内イベントでの紹介ブース出展など、スポーツだけではなく、様々な分野での交流を進めました。



○学校給食におけるベラルーシ郷土料理の提供

(令和元 (2019) 年 6 月～)

市内全小中学校の学校給食でベラルーシの郷土料理を提供することで、「食」を通じて子どもたちの豊かな国際感覚を養うとともに、ベラルーシ新体操チームを応援する気運を高めました。

なお、令和元 (2019) 年 7 月 4 日には、第七小学校に駐日ベラルーシ共和国特命全権大使を招待し、授業風景をご覧いただくとともに、子どもたちと給食を試食していただきました。



一緒に給食を食べて交流する
大使と子どもたち



左から時計回りに、マチャンカ・
ビーツのサラダ・サリャンカ

○駐日ベラルーシ共和国特命全権大使による表敬訪問

(令和元(2019)年10月30日)

大使が市長を表敬訪問され、東京2020大会期間中の交流等について話し合われました。

○たちかわ楽市(世界ふれあい祭り)におけるベラルーシ大使館の出展

(令和元(2019)年11月3日、4日)

たちかわ楽市における「世界ふれあい祭り」において、大使館と連携してベラルーシやベラルーシ新体操チームを紹介しました。当日は駐日ベラルーシ共和国大使館のアレクサンドル・フィリチ領事も来場者と交流されました。



展示会場

○ホストタウン首長会議への出席(令和元(2019)年11月13日)

全国のホストタウンが参加するホストタウン首長会議が総理大臣官邸で開催され、市長が出席しました。

○ロヴェスニク公演会

令和2(2020)年3月3日には、ホストタウン交流事業として、たましんR I S U R Uホールを会場に、ベラルーシ少年少女ダンス劇団「ロヴェスニク」の公演会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

ベラルーシ新体操チームの事前キャンプ

ホストタウン相手国であるベラルーシの新体操チームについて、宮城県の白石市・柴田町・仙台大学東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会（以下「協議会」という。）と協力して事前キャンプの受け入れを行うとともに、東京女子体育大学や立川市体育協会、立川商工会議所等、多くの市域の関係団体と連携し、市をあげてチームを応援したほか、選手と子どもたちとの交流を行いました。

事前キャンプや交流事業の実施が、市民、特に子どもたちの心に残る取り組みとなり、チームや各関係団体との連携が、東京 2020 大会以降につながるレガシーとなることを目的としました。

【主な取り組み】

○事前合宿に関する協定を締結（平成 29（2017）年 6 月 14 日）

協議会がベラルーシ体操協会と事前合宿に関する協定を締結しました。

○立川市と協議会が調整を開始（平成 30（2018）年 4 月 13 日）

○ベラルーシ新体操チームが立川市を視察（平成 30（2018）年 7 月 31 日）

ベラルーシ新体操チームが、事前キャンプの候補として立川市を視察に訪れました。

○ベラルーシ新体操チームが事前キャンプの日程を了承

（平成 30（2018）年 9 月 29 日）

ベラルーシ新体操チームに、立川市を含む平成 31（2019）年度の事前キャンプ日程を提示し、了承を得ました。

○立川市における事前キャンプについて協議会と合意

（平成 30（2018）年 11 月 7 日）

協議会との間で、平成 31（2019）年度及び東京 2020 大会における事前キャンプについて合意し、立川市における事前キャンプの実施が決定しました。

○ベラルーシ新体操チーム紹介リーフレットの配布（平成 31（2019）年 4 月）

事前キャンプ実施の決定に伴い、ベラルーシと新体操チームを紹介するリーフレットを作製し、市内の全小中学校の児童・生徒に配布しました。

○協議会との協力協定を締結（平成 31（2019）年 4 月 22 日）

協議会との間で、東京 2020 大会に向け、相互に連携・協力してベラルーシ新体操チームの事前キャンプを受け入れるため、協力協定を締結しました。

令和元（2019）年の事前キャンプ

◆SAKURA CAMP in TACHIKAWA 新体操交流会の実施

令和元（2019）年7月31日と8月1日に、ベラルーシ新体操チームが東京2020大会に向けて立川市内で事前キャンプを行い、受け入れの際には交流会の実施や展示など、市を挙げて歓迎しました。



【主な取り組み】

- リーフレット、ちらしによる周知
- 市内大型商業施設の協力による展示
- 立川市新体操連盟や市民団体「お手玉の会」による歓迎セレモニー
- ベラルーシ新体操チームによる演技披露（約1,000名の方が観覧）
- 輝く個展受賞3店舗と連携した昼食の提供
- 宿泊施設における歓迎おもてなし（朝夕食時のベラルーシ料理提供など）



ららぽーと立川立飛での展示



子どもたちによる歓迎セレモニーの開催



ベラルーシ新体操チームによる華麗な演技



交流会後に新体操チームの皆さんと

○応援メッセージ動画の制作

(令和3(2021)年1月)

協議会と共同で応援メッセージ動画を制作し、ホストタウン専用サイトに掲出することで、ベラルーシ新体操チームにエールを送りました。



令和3(2021)年の事前キャンプ

令和3(2021)年の事前キャンプについては、宮城県白石市、仙台大学及び立川市において行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、移動を最小限にして選手の感染リスクを軽減するため、本市で予定していた日程も含め、宮城県白石市で集中して事前キャンプを実施しました。(令和3(2021)年7月27日～8月1日)

また、東京2020オリンピック終了後には、本市で報告会や表敬訪問を行う準備を進めていましたが、感染症の状況に改善が見られなかったことから、直前で中止としました。



白石市での事前キャンプの様子

○オンライン歓迎式の実施(令和3(2021)年7月27日)

協議会と合同で、白石市で事前キャンプを行っているベラルーシ新体操チームのオンライン歓迎式を実施し、市長からの応援のメッセージを届けました。



ベラルーシ新体操チーム、協議会の皆さん



市長より応援のメッセージ

東京 2020 オリンピックにおけるベラルーシ新体操チームの取材

入国から宮城県白石市での事前キャンプ、選手村への入村、出国に至るまでの間、選手たちの様子を現地で取材し、市民に向けて発信することで、応援の気運を高めました。



7月26日 入国
成田空港へ到着



8月2日 選手村入村
バスの中から手を振ってくれています



8月12日 出国
選手・スタッフ皆さんで記念撮影



笑顔でお別れ

○主な大会結果

【個人総合】

- ・アリーナ・ハルナスコ選手 第3位 銅メダル獲得
- ・アナスタシア・サロス選手 第8位 入賞

【団体総合】

第5位 入賞



銅メダルを獲得した
アリーナ・ハルナスコ選手

パンアメリカンスポーツ機構加盟国の事前キャンプ

市内の民間企業が誘致したパンアメリカンスポーツ機構加盟国の事前キャンプでは、令和3（2021）年7月13日から25日までの日程で、27か国から、競泳や柔道、ビーチバレーボール、陸上の選手、コーチ、スタッフ120名が参加し、市内民間企業が所有するスポーツ施設や近隣の大学施設において事前キャンプが実施されました。市では、市民の命と健康を守ることを第一に考え、感染対策の指導を徹底することで、事前キャンプ期間中の選手等の感染を防止しました。

○日程及び競技種目

- ・競泳・柔道
令和3（2021）年7月13日～19日
- ・ビーチバレーボール
令和3（2021）年7月16日～21日
- ・陸上
令和3（2021）年7月19日～25日

○参加国及び参加者数

選手、コーチ、スタッフを含め27か国120名

（単位：人）

参加国	競技等	選手	コーチ・スタッフ	計	参加国	競技等	選手	コーチ・スタッフ	計
アルバ	競泳	2	1	3	グレナダ	競泳	1	1	10
バルバドス	競泳	2	1	3		陸上	4	4	
ベリーズ	陸上	2	1	3	グアテマラ	競泳	1	1	4
ボリビア	競泳	2	2	8		柔道	1	1	
	陸上	2	2		ガイアナ	競泳	2	1	3
ケイマン諸島	陸上	2	1	3		ハイチ	競泳	2	
チリ	競泳	1	1	6	柔道		1	1	
	陸上	2	1		ホンジュラス	競泳	2	1	3
	スタッフ	-	1		メキシコ	スタッフ	-	5	5
コロンビア	競泳	2	1	3	ニカラグア	競泳	2	0	2
コスタリカ	競泳	2	1	9	パナマ	競泳	2	2	7
	柔道	1	1			柔道	1	2	
	陸上	3	1		パラグアイ	陸上	1	1	2
キューバ	ビーチバレー	2	1	9	ペルー	競泳	2	1	3
	陸上	3	3		セントキッツ・ネイビス	陸上	2	1	3
ドミニカ国	陸上	2	1	3	セントルシア	競泳	2	1	5
ドミニカ共和国	競泳	2	1	5		陸上	1	1	
	エクアドル	柔道	1	1	5	スリナム	競泳	1	1
柔道		3	1	ベネズエラ		競泳	1	1	
陸上		1	0			柔道	1	1	
エルサルバドル	競泳	2	0	3	合計		69	51	120
	スタッフ	-	1						

○会場

アリーナ立川立飛、ドーム立川立飛、タチヒビーチ、中央大学

○主な大会結果

- ・キラニ・ジェームズ選手（グレナダ）陸上男子 400m 第3位（銅メダル）
- ・ヤイメ・ペレス選手（キューバ）陸上女子 円盤投げ 第3位（銅メダル）

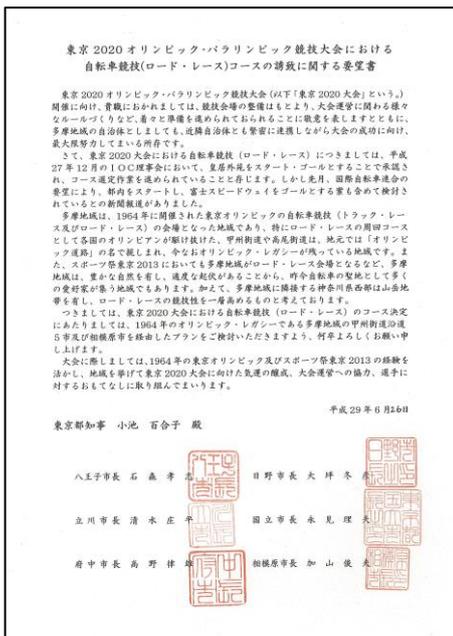
7 競技会場の誘致

「国際自転車連合の要望により、武蔵野の森（調布市）をスタート、八王子市や立川市、神奈川県を經由して、富士スピードウェイにゴールする新しい案が有力になっている」との報道を受け、平成29（2017）年6月26日、東京都知事及び組織委員会会長に対し、立川市・八王子市・府中市・日野市・国立市・相模原市の6市連名で要望書を提出しました。

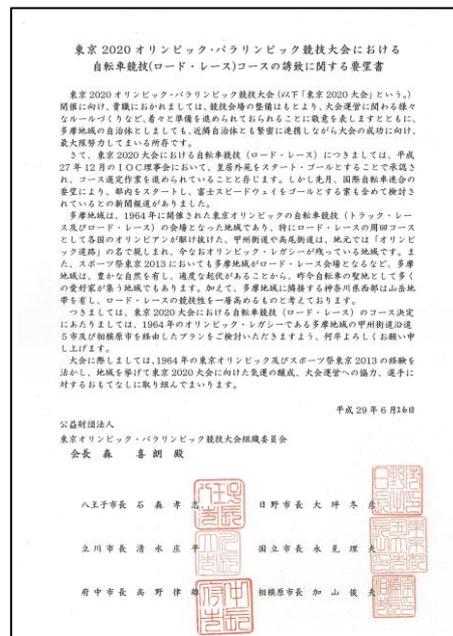
東京1964大会では、本市や八王子市が自転車競技・ロードレースの会場となっていたこと等から、多摩地域の甲州街道沿道の5市及び相模原市を經由したコースを検討いただくよう要望したものです。



6月26日東京都への要望



東京都知事への要望書



組織委員会会長への要望書

8 聖火リレー

東京 2020 オリンピック・パラリンピック聖火リレーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、公道におけるリレー走行が中止となりましたが、セレブレーション会場での点火セレモニーや、採火式等を実施しました。

取り組み	詳細
東京 2020 オリンピック聖火リレー	P. 51
東京 2020 パラリンピック聖火リレー	P. 54
聖火リレーサポーター	P. 58
聖火リレートーチの活用	P. 59

東京 2020 オリンピック聖火リレー

立川市におけるオリンピック聖火リレーは、令和 3（2021）年 7 月 12 日、子ども未来センター南側の道路上をスタートして市内をリレーでつなぎ、ゴールとなる TACHIKAWA STAGE GARDEN において、聖火の到着を祝うセレブレーションの開催が予定されていましたが、警視庁との協議や、ボランティアとなる聖火リレーサポーター 493 名への説明、また、沿道周辺の事業者や住民等への個別説明も終了していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、開催直前に公道におけるリレー走行が中止となり、セレブレーション会場において点火セレモニーのみが開催されました。

当日は、市内を走行する予定だった聖火ランナー 15 名が会場に集まり、ステージ上でトーチキスを行い聖火を繋いだほか、サポートランナーとして走行を予定していた第 11 回中学生「東京駅伝」大会立川市選手団 15 名によるフォトセッションを行いました。

【計画】

○聖火リレー（令和 3（2021）年 7 月 12 日）

出発地 子ども未来センター南（午後 6 時 55 分出発）

到着地 TACHIKAWA STAGE GARDEN（午後 7 時 40 分到着）





事業者や住民等へ配布した
交通規制のお知らせ



観覧する方へ感染予防の
ご協力をお願いしました

○セレブレーション (令和3 (2021) 年7月12日)

時間 午後6時5分から午後8時5分

会場 TACHIKAWA STAGE GARDEN

- 概要
- ・ 聖火の到着を祝うセレモニー
 - ・ 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学ストリートダンス部によるパフォーマンス
 - ・ プレゼンティングパートナーによるステージプログラムやブースの設置
 - ・ サポートランナー

(第11回中学生「東京駅伝」大会立川市選手団20名(現高校1年生)が最終聖火ランナーと走行)

【実施】

○セレブレーション会場における「点火セレモニー」

(令和3 (2021) 年7月12日)

時間 午後5時50分から午後6時20分

会場 TACHIKAWA STAGE GARDEN

- 概要
- ・ 市長から最初のランナーである秋山エリカさんの持つトーチに聖火を点火
 - ・ 聖火ランナー15名によるトーチキス
 - ・ 最終ランナー小倉智昭さんによる聖火皿への点火
 - ・ 市長、議長からの挨拶
 - ・ フォトセッション
聖火ランナーと市長及び議長によるフォトセッション
サポートランナー15名によるフォトセッション

オリンピック聖火リレー点火セレモニーの様子



市長が秋山エリカさんの持つトーチに聖火を点火



トーチキス後、聖火ランナーは思い思いのポーズ



小倉智昭さんによる聖火皿への点火



サポートランナーによるフォトセッション



東京女子体育大学・短期大学ストリートダンス部のパフォーマンスは、点火セレモニーの映像と合わせ、東京都のホームページで公開されました

東京 2020 パラリンピック聖火リレー

立川市におけるパラリンピック聖火リレーは、令和3（2021）年8月22日、諏訪の森公園北側の道路上をスタートし、ゴールとなる子ども未来センターにおいて、聖火の到着を祝うミニセレブレーションを開催する予定となっていました。東京都に発出された緊急事態宣言の延長に伴い、オリンピック聖火リレーと同様、公道におけるリレー走行が中止となりました。

当日は、国分寺市のセレブレーション会場に、立川市内を走行する予定となっていた聖火ランナー20名が集まり、点火セレモニーが開催されたほか、サポートランナーとして走行を予定していた都立立川ろう学校陸上競技部生徒7名によるフォトセッションを行いました。

また、パラリンピック聖火リレーに先立つ令和3（2021）年8月20日には、市域の関係団体の協力のもと、立川市における採火式を子ども未来センターで開催しました。採火式では、市内4か所の障害者福祉施設において事前に採火された炎を関係団体の代表者がタッチで受取り、市民から集めたパラリンピックや共生社会実現への想いが書かれた短冊442枚に点火して「立川市の火」を採火しました。採火された「立川市の火」は、全国で採火された炎と共に集火され、パラリンピック聖火の一部となりました。

採火式の終了後には、子ども未来センターで「立川市の火」を展示する「聖火ビジット」を開催したほか、都内における集火式の終了後には、市役所1階多目的プラザと窓口サービスセンターにおいて、都庁より持ち帰った「東京都の火」を展示する「聖火ビジット」を開催しました。

【計画】

○聖火リレー（令和3（2021）年8月22日）

出発地 諏訪の森広場前（午後2時50分出発）

到着地 子ども未来センター（午後3時13分到着）



○ミニセレブレーション（令和3（2021）年8月22日）

時間 午後2時30分から午後3時30分

会場 子ども未来センター

概要 ・聖火の到着を祝うセレモニー

・ステージパフォーマンス

立川女子高等学校吹奏楽部による演奏

サポートランナー（都立立川ろう学校陸上競技部生徒7名が
最終聖火ランナーと走行）

【実施】

○採火式（令和3（2021）年8月20日）

時間 午前8時30分～午前9時

会場 子ども未来センター

概要 市内4か所の障害者福祉施設が独自の方法（※詳細はP.56参照）で採
った炎を、市民から募集したパラリンピックや共生社会実現への想
いを書いた短冊に点火し、聖火の一部となる「立川市の火」を採火

○聖火ビジット（展示）（令和3（2021）年8月20日）

会場・時間

・子ども未来センター 午前9時30分～午前11時（立川市の火）

・市役所1階多目的プラザ 午後3時～午後5時（東京都の火）

・窓口サービスセンター 午後3時～午後8時（東京都の火）

概要 「立川市の火」、「東京都の火」の展示

○セレブレーション会場での「点火セレモニー」

（令和3（2021）年8月22日）

時間 午後4時20分～午後4時50分

会場 国分寺市新庁舎建設予定地

概要 ・市長、議長による挨拶

・市長から最初のランナーの持つトーチに聖火を点火

・聖火ランナー20名によるトーチキス

・ランタンへの納火

・フォトセッション

聖火ランナーと市長及び議長によるフォトセッション

サポートランナー7名によるフォトセッション

採火式、聖火ビジットの様子



【採火式】議長が採火皿へ点火



【採火式】市長が「立川市の火」をランタンに納火



【採火式】採火後に関係者の皆様と



【聖火ビジット】市役所で「東京都の火」を展示

各障害者福祉施設の採火方法

- 社会福祉法人立川市社会福祉協議会
利用者の皆さんの願いを書いた短冊や紙製品を燃やして採火
- 社会福祉法人すみれ会
利用者の皆さんのパラリンピックや共生社会への想い、願い等を書いた短冊や折り紙を火種として採火
- 社会福祉法人東京リハビリ協会
テーマは「想いを繋ぐ」。ファイヤースターターを使って利用者の皆さんが作った火種を東京1964大会を経験した法人役員のトーチに点火し、リレー形式で利用者の皆さんのトーチを繋いで採火
- 社会福祉法人東京都同胞援護会
事業所併設のパン屋で使用しているピザ窯から火を取り、リレー形式でランタンに火を移して採火

パラリンピック聖火リレー点火セレモニーの様子



市長が聖火をトーチに点火



聴覚障害者として初めてエベレスト登頂に成功した田村聡さん（写真左）



パラリンピックでは、3人がチームになって聖火をリレー



サポートランナーによるフォトセッション



立川女子高等学校 吹奏楽部の演奏は、点火セレモニーの映像と合わせ、東京都のホームページで公開されました

聖火リレーサポーター

聖火リレー実施日にボランティアとして活動いただく「聖火リレーサポーター」について、東京都の提示する人数を区市町村で募集しました。

○オリンピック聖火リレーサポーター

立川市においてはオリンピック聖火リレーで 450 人が必要と試算されたため、市職員のほか、以下のとおり、関係団体等にご協力をいただきました。

(単位：人)

市職員	立川市体育協会	東京女子体育大学 ・短期大学	スポーツ推進委員 協議会	赤十字奉仕団
95	155	108	12	28
あいおいニッセイ 同和損保(株)	三井住友海上 火災保険(株)	東京海上日動 火災保険(株)	多摩信用金庫	明治安田生命 保険相互会社
10	10	10	10	28

公募した 27 名の方を合わせ、計 493 名の聖火リレーサポーターに応募いただきましたが、公道走行の中止に伴い、聖火リレーサポーターの活動も中止となりました。

参加していただく予定だった方には、活動時に着用していただく予定だったユニフォーム（キャップ・ポロシャツ）をお渡ししました。



○パラリンピック聖火リレーサポーター

立川市においてはパラリンピック聖火リレーで 280 人が必要と試算されたため、市職員のほか、以下のとおり、関係団体等にご協力をいただきました。

(単位：人)

市職員	立川市体育協会	東京女子体育大学 ・短期大学	スポーツ推進委員 協議会	-
83	100	56	13	-
あいおいニッセイ 同和損保(株)	三井住友海上 火災保険(株)	東京海上日動 火災保険(株)	多摩信用金庫	明治安田生命 保険相互会社
10	10	12	10	20

計 314 名の聖火リレーサポーターに応募いただきましたが、公道走行の中止に伴い、聖火リレーサポーターの活動も中止となりました。

参加していただく予定だった方には、活動時に着用していただく予定だったユニフォーム（キャップ・ポロシャツ）をお渡ししました。



聖火リレートーチの活用

市役所において展示を実施し、市における聖火リレーの取り組みをオリンピックとパラリンピックの聖火リレートーチとともに紹介したほか、市内の全小中学校を聖火リレートーチが巡り、子どもたちに触れてもらうことで、心に残る取り組みとしました。

【主な取り組み】

○オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチ巡回展示

(令和3(2021)年4月15日、16日) (※再掲・P.29参照)

○「展示～東京2020大会を振り返る～」

(令和3(2021)年10月28日～11月4日)

東京2020大会に出場した市にゆかりのある選手が大会で使用した競技用具や、ベラルーシ新体操チームが銅メダルを獲得するまでの軌跡などに加え、実際に使用されたオリンピック・パラリンピック聖火リレートーチを展示し、東京2020大会に関連した市の取り組みを市民に紹介しました。



オリンピック・パラリンピック
聖火リレートーチ



ゆかりのある選手が使用した競技用具等

○市内全小中学校の巡回 (令和3(2021)年11月～令和4(2022)年3月)

オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチが市内全小中学校を巡ることで、子どもたちが間近に見て、触れて、オリンピックとパラリンピックを身近に感じることができる、心に残る取り組みとしました。



学校巡回 (小学校)



学校巡回 (中学校)

9 記録の保存

東京 2020 大会の準備や実施に伴って作製・利用された物品等のうち、長期的に保存し、後世に受け継いでいくべき重要なレガシーとして、以下のものを保存することとしました。アーカイブ資料として歴史民俗資料館に保存し、今後の展示やイベントの際に活用します。※詳細は資料編 P. 103 参照

○物品

- ・聖火リレートーチ（オリンピック・パラリンピック）
- ・聖火ランナーユニフォーム（オリンピック・パラリンピック）
- ・横断幕（オリンピック・パラリンピック聖火リレー）
- ・聖火リレーサポーターユニフォーム（オリンピック・パラリンピック）
- ・聖火リレーうちわ（オリンピック・パラリンピック）
- ・東京 2020 エンブレムのぼり旗
- ・東京 2020 エンブレムピンバッジ
- ・ベラルーシ新体操チームサイン
- ・近代五種紹介ポスター
- ・東京 2020 大会を象徴する品（ブーケマスケット、メダルケース、ワールドキャスト用ユニフォーム一式等） ほか

○資料

- ・東京 2020 大会に関連した立川市の取り組みについての記録映像（ダイジェスト映像、テレビ局取材映像）
- ・本報告書

10 人材育成

他に類を見ない規模で開催されるオリンピック・パラリンピックの運営に関わる業務や、多様な関係者との連携・協力を通じ、自治体の枠に捉われない創造性や感覚、調整能力等を習得することを目的に、東京都や組織委員会へ市職員を派遣しました。

○東京都オリンピック・パラリンピック準備局への職員派遣

- ・平成 29 年度～平成 30 年度 1 名

○組織委員会への職員派遣

- ・平成 26 年度～平成 27 年度 1 名
- ・平成 28 年度～平成 29 年度 1 名
- ・平成 30 年度～令和 2 年 9 月 30 日 1 名

11 スポーツ（障害者スポーツ）の推進

東京 2020 大会を契機として、立川市第2次スポーツ推進計画の基本理念「市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しむことができるまち立川」の実現に向けて取り組みを展開しました。

スポーツの楽しさや魅力について普及啓発を図るとともに、子どもや高齢者、障害者など、誰もが参加できるスポーツ事業を立川市体育協会等と連携して行い、スポーツを「する」「みる」「ささえる」市民の取り組みにつながりました。

取り組み	詳細
トップアスリートによる競技指導	P. 61
健康づくりの取り組み	P. 63
ニュースポーツの推進	P. 63
プロスポーツチームとの連携	P. 64
障害者スポーツ教室	P. 64
障害者スポーツ体験会	P. 66
障害者スポーツ研修会	P. 66
東京都市町村ボッチャ大会の開催	P. 67
市民ボッチャ大会の開催	P. 68

トップアスリートによる競技指導

地域でスポーツを楽しむ市民に対し、モチベーションや競技力の向上を目指すことを目的として、トップアスリートを指導者に招いたスポーツ教室や講演、泉市民体育館まつりを実施しました。参加者からは、「普段接することができない高い技術を指導していただき、貴重な経験となった」との声が寄せられました。

【主な取り組み】

○泉市民体育館まつりにおけるスポーツ教室

バスケットボールのイベントやフットサル、水泳、ボルダリングなどの教室を開催しました。



フットサル教室



ボルダリング教室

(単位：人)

年度	バスケットボール	フットサル	卓球	水泳	ボルダリング
平成28 (2016) 年度	60 (英語でバスケ) 80 (団体試合)	25	41	31 (ワンポイントレッスン) 30 (ライフセービング) 22 (遠泳講習会)	-
平成29 (2017) 年度	-	25	39	65 (ライフセービング) 75 (遠泳講習会)	257
平成30 (2018) 年度	-	64	-	61 (ライフセービング) 28 (遠泳講習会)	551
平成31 (2019) 年度	-	46	-	67 (ライフセービング) 68 (ファミリー遠泳)	220

○アスリートスポーツ教室

指導者にトップアスリートを招き、泉市民体育館の個人開放時間を活用して、中級以上の競技経験者を対象とした教室を開催しました。



卓球教室



立川市出身のオリンピック
中野高氏による水泳教室

(単位：人)

年度	バスケットボール	バドミントン	卓球	水泳
平成29 (2017) 年度	-	35	28	-
平成30 (2018) 年度	-	45	43	50
平成31 (2019) 年度	68	41	-	40
令和2 (2020) 年度	68	38	-	感染症の影響により中止

○オリンピックによる講演会、教室の開催

競泳、陸上、シンクロナイズドスイミング (アテネ 2004 オリンピック当時。現アーティスティックスイミング) 等のオリンピックを講師に招き、講演会や教室を開催しました。



オリンピック新宅雅也氏による
ランニング教室



オリンピック藤丸真世氏による
シンクロ教室

(単位：人)

年度	講師	内容	参加者数
平成29 (2017) 年度	柴田隆一氏 (北京オリンピック 競泳日本代表 (200mバタフライ))	「スポーツ選手の食事のとり方」講演会	32
	新宅雅也氏 (モスクワ・ロサンゼルス・ ソウルオリンピック 陸上競技日本代表)	「トップアスリートの経験から」講演会	22
平成30 (2018) 年度	新宅雅也氏 (同上)	「立川シティハーフマラソンを目指して 練習しよう！」ランニング教室	22
	藤丸真世氏 (アテネオリンピック シンクロナイズドスイミング日本代表 (銀メダリスト))	「オリンピックのメダリストと一緒に シンクロを練習してみよう！！」 シンクロ教室 (リズム水泳)	32
平成31 (2019) 年度	新宅雅也氏 (同上)	「立川シティハーフマラソンを目指して 練習しよう！」ランニング教室 (感染症の影響により中止)	-
	藤丸真世氏 (同上)	「オリンピックのメダリストと一緒に シンクロを練習してみよう！！」 シンクロ教室 (リズム水泳)	32

健康づくりの取り組み

○ラジオ体操・みんなの体操会及び指導者講習会

ラジオ体操の専門家を講師として招き、正しい動きを身に着けることで効果的に、また、継続して実施することで市民の健康づくりにつなげました。さらに、地域での指導につなげるため、スポーツ指導者を対象に、より詳しくラジオ体操の動きを説明した講習会を開催しました。



ラジオ体操会・みんなの体操会

ニュースポーツの推進

○ニュースポーツ体験会の開催

継続してスポーツを行う市民を増やすことを目的に、これまでミニテニスやソフトバレーの普及をそれぞれ 10 年程度の期間をかけて進めてきました。

また、新たな種目のニュースポーツを普及させるため、平成 30 (2018) 年度と平成 31 (2019) 年度の 2 か年にわたり、ゴールドッチやソフトラクロス の体験会を実施しました。

合わせて、市内 12 地区の体育会に参加を呼びかけ、ルールの説明や練習、試合を行う体験会を実施しました。



ゴールドドッチ体験会



ソフトラクロス体験会

プロスポーツチームとの連携

〇本市をホームタウンとするプロスポーツ チームによる競技指導

泉市民体育館DAY（「泉市民体育館まつり」から名称変更）において、立川ダイスのコーチによるバスケットボールの教室等を開催しました。

- ・令和2（2020）年度 参加者数 548 人
（バドミントン、太極拳などの体験教室を含む）



立川ダイスのコーチによる
バスケットボールの指導

障害者スポーツ教室

オリンピック・パラリンピックに向けた気運を醸成するとともに、障害者スポーツを通じて障害のある方への理解を促進し、また、パラリンピックをきっかけとして障害者スポーツの普及・啓発を図りました。

将来にわたり継続的にスポーツを楽しめるよう、泉市民体育館や柴崎市民体育館でバドミントンやヨガ、ダンス、ブラインドサッカー等の教室を開催したほか、障害者施設での訪問教室を実施しました。なかでも泉市民体育館で実施したバドミントンやヨガ教室では、障害のある方もない方も参加して一緒にスポーツを楽しみました。



バドミントン教室



ヨガ教室

泉市民体育館における取り組み

(単位：人)

年度	バドミントン	ボッチャ	ダンス	水泳大会 (アクアフェスティバル)	シッティングバレー	ヨガ
平成27 (2015) 年度	23 (全3回)	72 (全3回)	34 (全3回)	42	39	-
平成28 (2016) 年度	190 (全9回)	179 (全9回)	110 (全9回)	71	18	-
平成29 (2017) 年度	195 (全9回)	235 (全9回)	108 (全9回)	52	48	-
平成30 (2018) 年度	215 (全9回)	162 (全9回)	-	55	6	139 (全9回)
平成31 (2019) 年度	122 (全5回)	141 (全6回)	-	感染症の影響により中止	-	143 (全6回)

柴崎市民体育館における取り組み

(単位：人)

年度	サッカー	ブラインドサッカー	サウンドテーブルテニス	ボッチャ	フロアホッケー	シッティングバレー	卓球バレー	ダンス	風船バレー
平成28 (2016) 年度	5	10	16	20	15	19	18	16	-
平成29 (2017) 年度	37 (全2回)	16	-	10	2	6	12	14	-
平成30 (2018) 年度	28 (全2回)	-	-	18	14	-	27	19	31 (全2回)
平成31 (2019) 年度	-	-	-	14	-	-	-	-	-

市内福祉施設を対象とした訪問教室等

年度	会場	種目	参加人数 (人)
平成29 (2017) 年度	立川福祉作業所	サッカー	30
平成30 (2018) 年度	立川福祉作業所	軽体操・ふれあいサッカー等	20
	至誠ホーム まことクラブ		40
平成31 (2019) 年度	立川福祉作業所	風船を使用した運動	33
		ボールを使用した軽運動	16
	すみれ会	風船を使用した運動	39
		風船バレー	29
まことクラブ	サッカー	29	
令和2 (2020) 年度	立川福祉作業所	ダンス・エクササイズ (オンライン)	26 (全3回)
		ダンス・サッカー	72 (全6回)
		ダンス・キックボウリング	12
		ダンス・キックボッチャ	8

障害者スポーツ体験会

障害者スポーツを通じて障害のある方への理解を促進し、「心のバリアフリー」を醸成するため、市民が多く集まる各種イベントの場を活用した障害者スポーツの体験会を実施しました。

【主な取り組み】

- シッティングバレーボール日本代表チームによる小中学生対象の体験会
- 東京都主催のパラリンピック競技体験イベント「NO LIMITS CHALLENGE」におけるパラリンピック競技の体験会や展示（※再掲・P. 25 参照）
- 緑化まつりにおけるブラインドサッカー体験会（※再掲・P. 30 参照）
- たちかわ楽市におけるブラインドサッカー体験会（※再掲・P. 31 参照）



シッティングバレー体験会



車いすバスケット体験会

障害者スポーツ研修会

市は、スポーツ推進委員と連携し、障害者とともに様々な種目の障害者スポーツ体験会を実施しました。

スポーツをする機会の少ない障害者に様々なスポーツを体験する機会を提供することで、継続してスポーツを楽しむきっかけとするとともに、スポーツ推進委員が障害者スポーツのイベント運営のノウハウを学び、地域での障害者スポーツの推進につながりました。

○ボッチャ体験会の実施

ボッチャ競技者や審判員の方を講師にお招きし、障害者や福祉施設関係者とともにボッチャの体験会を行いました。スポーツ推進委員にとっても、障害のある方へのサポートや接し方を学ぶよい機会となりました。



競技経験者によるデモンストレーション



ボッチャの試合

(単位：人)

参加者	平成27 (2015) 年度	平成28 (2016) 年度	平成29 (2017) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度
障害者・障害者施設スタッフ等	26	33	29	7	20
立川市スポーツ推進委員	19	21	17	15	17

○「チャレンジスポーツ！たちかわ」の実施

誰にでも親しみやすく、お祭りの縁日のようなゲーム性があり、障害のある人もない人も共に楽しみながらチャレンジできる7種目のスポーツを行いました。

- ・ミニボッチャ（1対1の対戦型ボッチャ）
- ・紙ボッチャ（A3サイズの紙にボッチャの球を乗せる）
- ・窓抜き（ドッジビーディスクを1m～5mの距離から枠に通す）
- ・バラエティー玉入れ（様々なボールを玉入れの籠やカートに入れる）
- ・輪投げ
- ・風船バレー（数名で輪になり風船をパスする）
- ・カラフル玉入れ（様々な形の籠にラケットでミニテニスボールを入れる）



風船バレー



カラフル玉入れ

東京都町村ボッチャ大会の開催

障害の有無や年齢、性別などに関わらず、同じルールの下で競技を楽しむことができるボッチャ競技を実践し、東京2020大会に向けた気運の醸成などを目的とし、多摩26市が協力してボッチャ大会を開催しました。

【主な取り組み】

○実行委員会の開催

平成31（2019）年2月に実行委員会を開催し、第1回の東京都町村ボッチャ大会の開催が決定しました。

○ボッチャサポーター講習会の開催

各市の予選会において運営に携わる人材を対象に、「ボッチャサポーター講習会」を計4回開催し、立川市からはスポーツ推進委員2名が参加しました。

○第1回東京都市町村ボッチャ大会の開催（令和2（2020）年2月16日）

武蔵野総合体育館（武蔵野市）において、第1回東京都市町村ボッチャ大会を開催し、多摩地域26市3町から57チーム236人が参加して熱戦が繰り広げられました。



ジャックボールと呼ばれる白いボールに、赤と青のボールをいかに多く近づけられるかを競います



たくさんの参加者、関係者の方にご参加いただきました

立川市では、立川市体育協会から「立川Breve Crew」と「立川ヴィクトリー」の2チームが参加し、「立川Breve Crew」はベスト8に進出しました。

また、特別ゲストとして広瀬隆喜氏（リオ2016パラリンピック大会銀メダリスト）を招き、広瀬氏には、大会参加者の前でパラリンピアの技を披露していただきました。



銀メダリストの広瀬隆喜氏

市民ボッチャ大会の開催

障害者スポーツやニュースポーツの振興を図るため、平成29（2017）年度から立川市体育協会主催の市民ボッチャ大会を開催しています。子どもや高齢者、障害者等、市内全域から幅広い参加があり、平成31（2019）年度からは東京都市町村ボッチャ大会の予選会も兼ねて開催されています。



12 スポーツ環境の整備

東京都の「東京 2020 大会の成功に向けた区市町村支援事業」の一つである「スポーツ振興等事業費補助（ハード）」を活用し、必要な備品の設置や、施設の改修などを行うことで、誰もが利用しやすいスポーツ環境の整備を進めました。

○市民体育館におけるスポーツ環境の整備

- ・ 泉市民体育館に大型気化式涼風機を設置
- ・ 泉市民体育館に空手マットを整備
- ・ 泉市民体育館第二体育室に空調設備を設置



空手マットの整備



空調設備の設置

○利用機会の拡大を目的とした屋外スポーツ施設の改修

- ・ 泉町庭球場のコート改修
- ・ 砂川中央地区庭球場のコート改修
- ・ 砂川中央地区ゲートボール場のコート改修



泉町庭球場のコート改修



砂川中央地区ゲートボール場のコート改修

- ・ 立川公園野球場のトイレ改修
- ・ 見影橋公園野球場のトイレ改修



見影橋公園野球場のトイレ改修

13 来街者に向けた情報発信力の強化

東京都や立川観光協会、立川市商店街振興組合連合会等と連携し、来街者のニーズにあわせた観光ガイドブックやマップを配布したほか、WEBサイトを活用するなど、立川の魅力や地域資源を様々な機会を発信しました。

【主な取り組み】

○観光案内機能の活用

・立川市観光案内コーナーの活用

窓口サービスセンター内のスペースに設置した立川市観光案内コーナーを活用し、市の観光情報を発信しました。

・東京観光情報センター多摩との連携

東京観光情報センター多摩と連携し、市の観光案内を行いました。

・東京観光案内窓口の推進

民間事業者と連携し、国内外の旅行者に対し、地域の観光情報を提供する「東京観光案内窓口」の設置を推進しました。GREEN SPRINGS インフォメーションと立川高島屋S.C. インフォメーションで開設しました。

○観光ガイドマップ等の活用

- ・各種イベントで観光ガイドブック及びマップ等を配布
- ・「たらった立川」（立川の「輝く個店」を紹介するWEBサイト）の開設
- ・「ファーレ立川アートナビ」（ファーレ立川を紹介するアプリ）の配信
- ・ファーレ立川アートプロモーション動画制作、立川市動画チャンネル公開
- ・「輝く個店」や立川の観光スポットを紹介する公式Instagramの開設
- ・インバウンド向け観光PR動画制作。立川市動画チャンネル、「New type」公式Weiboアカウントで配信



観光ガイドブック及びマップ



おすすめスポットの紹介サイト

14 来街者を受け入れる環境の充実

来街者が情報を収集する際の利便性と、まちの回遊性を向上させる取り組みを、市域の関係団体と連携して進めました。

【主な取り組み】

○公衆無線LANの整備

立川駅周辺へTachikawa City Free Wi-Fiを整備しました。



○立川駅周辺の案内サイン整備

来街者等による駅周辺や観光施設における多言語対応表示・標識等に関するモニタリング調査を行いました。また、立川ターミナル整備計画を策定し、案内サインやエレベーターサインを平成31（2019）年度は30か所、令和2（2020）年度は10か所整備しました。



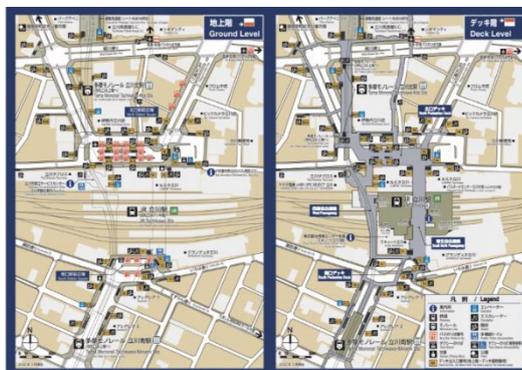
立川駅北口ペDESTリアンデッキに整備した案内サイン



立川駅のコンコースに整備した案内サイン

○立川駅周辺案内マップの作製

立川駅周辺について、デッキ階・地上階昇降口ナンバー・バス乗り場を掲載した案内マップを、平成31（2019）年度は日本語版・英語版5,000部、令和2（2020）年度は中国語版・韓国語版3,000部作製しました。



○環境美化の取り組み

立川駅南口公衆便所を改修しました。

15 「おもてなし力」向上の取り組み

言葉や文化の違いに関わらず、訪れた人を温かく迎えるため、東京都や立川観光協会と連携してボランティア人材の育成を進めたほか、多文化共生意識の浸透や国際理解を促進させ、市域の「おもてなし力」向上を図りました。

【主な取り組み】

○「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座

東京 2020 大会を見据え、外国人観光客等が安心して滞在できる環境を整えるため、平成 27 (2015) 年度から平成 31 (2019) 年度にかけて、「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を実施しました。

(単位：人)

セットコース (初級編)	平成27 (2015) 年度	平成28 (2016) 年度	平成29 (2017) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	合計
回数	6	-	5	5	5	21
受講者数	23	-	36	36	30	125

おもてなし コース (中級編)	平成27 (2015) 年度	平成28 (2016) 年度	平成29 (2017) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	合計
回数	-	2	1	1	1	5
受講者数	-	52	60	24	24	160

※主催は東京都。市は会場提供・受付を実施。(平成 27 (2015)、平成 28 (2016) 年度の内、各 1 回は市主催)

○まちの案内人に対する英語による「おもてなし」講習

(平成 28 (2016) 年 3 月 16 日)

外国人観光客を「おもてなし」の心でお迎えするためのノウハウや、その際に必要となる英会話の講習(受講者数：16名)を実施しました。

○「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座修了者等に向けたおもてなしボランティアフォローアップ研修

外国人観光客を「おもてなし」の心でお迎えするためのノウハウや英会話を学ぶため、平成 28 (2016) 年度から令和 2 (2020) 年度にかけて、通訳案内士による訪日外国人向けの英語ガイドツアーなどを活用した講習会を実施しました。



外国人向けの英語ガイドツアー
を活用した講習会



おもてなし講座

(単位：人)

日程	内容	参加者数
平成28 (2016) 年度	・訪日外国人向けの英語ガイドツアー（東京タワー、皇居、浅草） ・「おもてなし」とそのノウハウについての講座	38
平成29 (2017) 年度	・立川市内を巡る英語ガイドツアー（国営昭和記念公園、古民家園、国立極地研究所） ・「おもてなし」とそのノウハウ、英会話についての講座	43
平成30 (2018) 年度	・立川市内を巡る英語ガイドツアー（国営昭和記念公園、古民家園、国立極地研究所） ・「おもてなし」とそのノウハウ、英会話についての講座	21
平成31 (2019) 年度	・おもてなしの説明やとっさに使える一言フレーズ紹介等についての講習 ・外国人エキストラ（ALT（外国語指導助手））への英語での国営昭和記念公園内案内 ・振り返りセミナー	22
令和2 (2020) 年度	・新型コロナウイルス感染症の影響により実地ロールプレイは中止 ・おもてなしの説明やとっさに使える一言フレーズ紹介等についてのオンライン講習	14

○都市ボランティア（シティキャスト）の推薦

競技会場周辺における案内や主要駅における交通案内などの役割を担い、開催都市・東京の「顔」として、選手をはじめとする大会関係者や国内外からの観光客等を「おもてなしの心」を持ってお迎えする都市ボランティアの募集について、東京都からの依頼に基づき、52人を推薦しました。

また、市は東京都と連携して、都市ボランティア（シティキャスト）がJR立川駅周辺で活動する拠点について調整を進めましたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりJR立川駅周辺での都市ボランティア（シティキャスト）の活動は中止となりました。

○多文化共生の意識や国際理解の促進

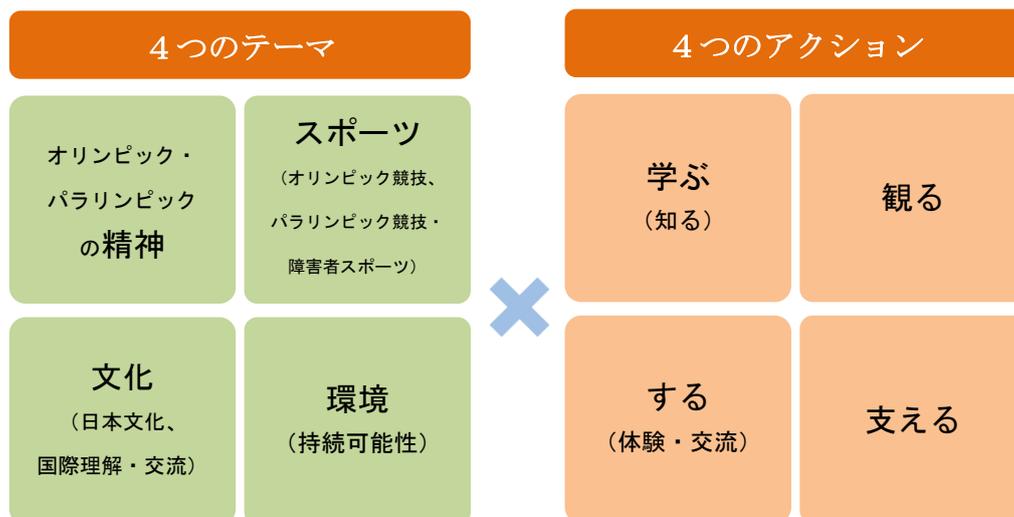
女性総合センターや地域学習館において多文化共生や国際理解に関する講座を開催し、国籍や民族、文化の違いを互いに尊重し、共生する地域社会の実現を目指しました。



多文化共生・国際理解講座

16 オリンピック・パラリンピック教育の推進

東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針に基づいた教育を実施するとともに、4つのテーマと4つのアクションを組み合わせた取り組みを小中学校全校において展開し、ボランティアマインド、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚の5つの資質を重点的に育成しました。



【主な取り組み】

○オリンピック・パラリンピックの精神に関する取り組み

- ・オリンピック・パラリンピック教材を活用した学習
- ・オリンピックやパラリンピアンを招いた交流や講演会

○スポーツ（オリンピック競技、パラリンピック競技・障害者スポーツ）に関する取り組み

- ・オリンピックやパラリンピアン、トップアスリートを招いた体験授業



障害者スポーツの体験授業
(ブラインドサッカー)



女子ソフトボールのオリンピック
佐藤理恵さんを招いた体験授業

- ・スポーツの応援や観戦マナーに関する学習
- ・車いすや車いすスポーツの体験学習
- ・市にゆかりのある選手を応援するとともに、授業、講演会等の中で、選手の貴重な経験を学ぶ取り組み

○文化（日本文化、国際理解・交流）に関する取り組み

- ・落語家等文化人を招いた講演会
- ・留学生等外国人との交流事業
- ・世界各国の歴史や文化等に関する学習
- ・伝承遊び体験

○環境（持続可能性）に関する取り組み

- ・ユニバーサルデザインやバリアフリー等に関する学習
- ・ごみ処理や水に関する学習
- ・地域の美化活動



学校周辺の掃除活動



朝の挨拶運動

17 文化プログラムの推進

文化芸術に身近に触れることのできる機会を提供し、地域の特性に応じた特色ある文化や市民の文化芸術活動を広く発信するとともに、その充実を図りました。なお、実施した事業の多くが Tokyo Tokyo FESTIVAL 連携事業として採択されました。

※Tokyo Tokyo FESTIVAL は、オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える東京都主催の取り組みです。

【主な取り組み】

○立川シアタープロジェクト

立川市の文化芸術発信拠点である、たましんR I S U R Uホールにおいて実施する演劇を核として、関連する講座やワークショップを開催することで、幅広い世代に向けた文化芸術作品の鑑賞や体験の機会を創出し、次世代の文化の担い手を育成するとともに、市域を超えた文化芸術の振興を図ることに繋がりました。【Tokyo Tokyo FESTIVAL 連携事業：子どもとおとなが一緒に楽しむ舞台 vol. 4 『イーハトーヴ童話集～ケンジのネコとトモダチに～』】

- ・立川市地域文化振興財団、NPO法人と連携した運営
- ・音楽劇の創作と上演
- ・創作した音楽劇に関連する講座やワークショップ



平成 29 (2017) 年 12 月公演
「西遊記」より

○アール・ブリュットの支援

- ・アール・ブリュット立川展への支援

障害を持つ方々の作品展「アール・ブリュット立川」への支援を行いました。

【Tokyo Tokyo FESTIVAL 助成事業：
「アール・ブリュット in 昭和記念公園」
(令和 3 (2021) 年度開催)】



アール・ブリュット in 昭和記念公園

○伝統芸能体験

- ・子どものおためのお箏教室の開催

(立川市地域文化振興財団・日本三曲協会・日本芸能実演家団体協議会主催)

平成 29 (2017) 年 1 月から小学 3 年～中学生を対象としたお箏教室を開始し、20 人の児童・生徒が参加し日本の伝統芸能に触れ合いました。

【東京 2020 文化オリンピックアード認証事業】

○立川市民文化祭の支援

立川市文化協会が実施する市民文化祭を支援しました。市民文化祭を通じて、市民及び文化団体相互の交流を深めるとともに、市民等に自己表現の機会・場を提供しました。

【Tokyo Tokyo FESTIVAL 連携事業：第 62 回市民文化祭】

【Tokyo Tokyo FESTIVAL 助成事業：第 62 回市民文化祭（市民文化フェスティバル公演）】

○立川よいと祭り

立川よいと祭りの第 30 回記念（平成 30（2018）年 8 月開催）において、市民団体の東京カペラが「東京五輪音頭-2020」を披露したほか、祭りのハイライトとなる民踊流しでは、歌手が歌う東京五輪音頭に合わせて、400 名を超える参加者が華麗に踊ることでオリンピック・パラリンピックの東京開催の気運を醸成しました。

また、パラリンピックの魅力を体験・体感できる東京都主催のプログラム「NO LIMITS CHALLENGE」も併催し、賑わいを見せました。（※再掲・P.25 参照）

【Tokyo Tokyo FESTIVAL 連携事業：第 31 回立川よいと祭り～光と音のシンフォニー～】



○たちかわ楽市

国営昭和記念公園等の地域資源を活用し、にぎわいの中に優しさとふれあいのあるまちづくりの推進を図り、地域間連携の発展に寄与するために開催するたちかわ楽市を支援しました。【Tokyo Tokyo FESTIVAL 連携事業：たちかわ楽市 2019】

○ワークショップ×ワークショップ edu

文化芸術の育つ環境づくりを進めるため、活動の支援を行う立川文化芸術のまちづくり協議会が自主事業として「ワークショップ×ワークショップ edu」を開催、市民が気軽に文化・芸術に触れられる体験の場づくりをするとともに、参加団体による相互交流の場の提供を行いました。

【Tokyo Tokyo FESTIVAL 連携事業：ワークショップ×ワークショップ edu2019】

○ファーレ立川アートミュージアム・デー

世界 36 か国 92 人のアーティストによる 109 点のパブリックアートがある立川駅北口「ファーレ立川」を美術館に見立て、回遊展示やアートツアー、アートマーケットなど、様々なプログラムを開催。地域の活性化や魅力づくりに取り組みました。

【Tokyo Tokyo FESTIVAL 連携事業：2019 秋・春、2020 秋】

